

日本免震構造協会創立15周年記念事業 子ども絵画コンクールの結果発表

記念事業委員会
コンペ部会委員長 立道 郁生

このたび、日本免震構造協会創立15周年記念事業の一環として、「子ども絵画コンクール」を、記念事業委員会のコンペ部会が担当しました。応募資格は、国内の小・中学生で、テーマは、「地震のない未来、2050年のこんな家、こんなまちなみ、こんな暮らし」。11月28日に、受付を終了しました。ご応募、ありがとうございました。

69枚の素敵な絵の中から、審査会の結果、最優秀賞1名、優秀賞7名を決定させていただきました。

審査員

委員長 仙田 満(放送大学教授、こども環境学会会長)
委員 磯田 幹(画家)
酒井 輝男(朝日学生新聞社編集部長兼編集長)
立道 郁生(明星大学教授、日本免震構造協会記念事業コンペ部会委員長)
手塚 貴晴(武蔵工業大学准教授)
平田 知之(筑波大学附属駒場中学校教諭)

審査の様子



審査結果 「 」は作品テーマ

最優秀賞

「じしゃくの家」 徳山圭一郎君 港区立港南小学校3年生

優秀賞

「さばくの中の城」	疋野 隆也君	静岡市立中島小学校5年生
「空にいちばん近い城」	大野 洋生君	静岡市立中島小学校5年生
「緊急救命レスキュー隊出動!!」	東條 広大君	横浜市立黒須田小学校3年生
「ホッピングハウス」	芳沢佳央梨さん	鎌倉市立深沢小学校5年生
「どこへとんでいこうかな？」	小澤 優佳さん	朝霞市立朝霞第六小学校5年生
「木に守られた家」	山田 健斗君	本庄市立本庄東小学校1年生
「夢で見た家」	永野 佑佳さん	横浜市立すすき野中学校1年生

賞 : 優秀賞 賞状と副賞(1万円分の図書カード)
参加賞 応募者全員に1,500円分の図書カード

総 評

日本免震構造協会15周年記念として協会主催で行われた子ども絵画コンクール「地震災害のない未来、2050年のこんな家、こんなまちなみ、こんな暮らし」には69作品が応募された。内訳は中学生が6作品、その他が小学生であった。

テーマを全体的にとらえた作品から「地震災害のない」あるいは「2050年の未来の家」という点に重点をおいて表現した作品まで極めてバラエティーに富む作品が展開された。入賞したものは、そのテーマの捉え方においてはバランスの良いもの、アイデアがおもしろく特長のあるもの、児童絵画として色彩表現力が豊かなものが選定された。審査員は建築家2人、ジャーナリスト1人、美術家1人、構造家1人、教師1人という構成であるため、選定評価も極めて多様であった。しかしながら概ね高い評価を得た作品は集中した。応募された皆様のご努力に感謝したい。(仙田 満)

最優秀賞 「じしゃくの家」 徳山 圭一郎 君 港区立港南小学校3年生



選評：仙田 満

磁石の反発力を利用した家というそのアイデアが素晴らしい。しかも屋上は緑化され、大木が植えられている。色使いもよい。タッチも元気にあふれている。こんな家ができたら私も住みたいというような家だ。審査員全員が高い評価をした作品である。最優秀賞、おめでとう。

優秀賞 「さばくの中の城」 疋野 隆也君 静岡市立中島小学校5年生



選評：磯田 幹

疋野君は、このような絵をかくのが大好きに違いありません。想像が伸びやかで、絵を見る人もわくわくさせられます。俯瞰する構図を考えついたので、水路から荷揚げする船・工事現場で働く人たち、強固に積み上げた城塞、2本の黄金色の尖塔等々、見所いっぱいにかきました。

優秀賞

「空にいちばん近い城」 大野 洋生君 静岡市立中島小学校5年生



選評：手塚 貴晴

大方の作品がサザエさん型の家やお城のイメージから逃れられていないのに対して、この絵は全てオリジナルである。未来を予感するのが今回のテーマであるから、振り返らず前を向いて考えてもらいたい。この作品は見れば見るほどストーリーが尽きない。迷路のように中をめぐる階段や素敵なバルコニー。本来構造というものはいくら見よがしに見せ付けるものではない。ふわふわと浮遊するイメージだけで十分なのではないのだろうか。

優秀賞

「緊急救命レスキュー隊出動!!」 東條 広大君 横浜市立黒須田小学校3年生



選評：酒井 輝男

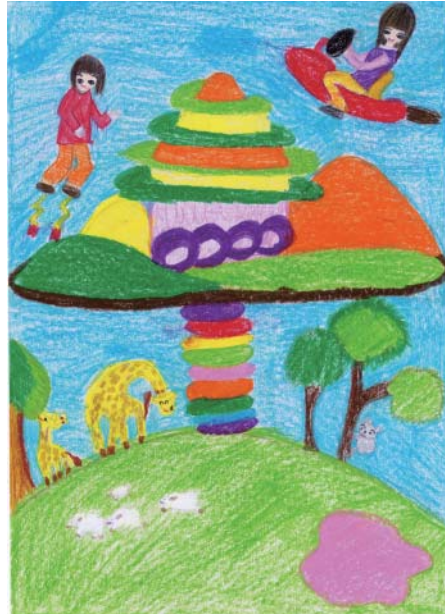
地震が起きたときに必要となる施設が一カ所に集まっています。地震そのものの発生を防ぐことは難しいが、地震、食糧、保護の各センターや救命病院までそろっていれば、被害を少なくできるでしょう。空から飛行船が見守ってくれるのも、市民の安心につながるでしょう。私たちも、この絵をよく見て地震が発生したときに何が必要なのか、頭に入れておきたいものです。

優秀賞

「ホッピングハウス」

芳沢 佳央梨さん

鎌倉市立深沢小学校5年生



選評：酒井 輝男

家についている大きなばねで、地震があっても、みんなでホッピングしながら逃げられます。省エネなので環境にもやさしいですね。周りにいるキリンやコアラ、ヒツジたちも安心してゐるのがわかります。

緑豊かな地域をゆうゆうとホッピングしながらまわっていく生活も楽しいでしょう。ただ、右上を飛んでいるオートバイのような乗り物が、排気ガスをだしているのが気になりますね。

優秀賞

「どこへとんでいこうかな？」

小澤 優佳さん

朝霞市立朝霞第六小学5年生



選評：立道 郁生

空を飛んでいけば、地震は心配ありませんね。たぶん、いっしょに飛んでいる形の違う家はお友達の家だと思います。とても楽しそうですね。見せたい自分の家をまんなか大きく描いて、気持ちの伝わる絵です。本当に空から見たように描かれている地上の人たちも、地震に強そうなドーム型の家に住んでいて、そういう生きかたも幸せそうです。飛んでいる家に車輪がついているのも、よく考えられていてびっくりしました。

優秀賞

「木に守られた家」

山田 健斗 君

本庄市立本庄東小学校1年生



選評：立道 郁生

大きな木は、地面にどっしり根を張っていて、地震が来ても大丈夫です。その木に守られているきみの家には、2050年型の赤い自動車があり、木の中の階段を下りて行くのですね。家は未来的な家具や家事ロボット？に囲まれて楽しそうです。地面の中と外のようなすが一枚の絵の中にうまく表わされていてとても良いと感じました。大きな木の全体は絵の中には描かれていないけれど、その大きさが見ている人に伝わるような絵です。

優秀賞

「夢で見た家」

永野 佑佳さん

横浜市立すすき野中学校1年生



選評：磯田 幹

夢では、いろんな花が咲き競っています。根も見事で太い根っこに支えられている家は、地震の心配は不要です。赤い傘がひとつ見えますね。水の滴が傘に落下し、傘を伝わって地に吸い込まれ、蒸発した虹に帰る。そんな水の循環の夢を見たのですね。